【 ジョイントシンポジウム 】

フード・フォラム・つくば 冬の例会 ／ (公社)日本分析化学会 表示・起源分析技術研究懇談会

# 「マスコミ・消費者視点からの食品表示制度のこれからと課題について」

日　時:2019年12月2日(月) 13:15～16:45
場　所:フクラシア八重洲 3階 会議室Ａ
(〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-4-1 ユニゾ八重洲ビル3F)
URL: https://www.fukuracia.jp/yaesu/access/
参加費:会員 無 料　会員外:1,000円
定　員:120名 (事前申し込み: 定員になり次第、締め切ります)

## プログラム

◆挨　拶 13:15～13:20　フード・フォラム・つくば 幹事長 **間 和彦 氏**
農研機構 食品研究部門長 **鍋谷 浩志 氏**

◆基調講演 13:20～14:20
**『食品表示制度の現状について』**
**黒坂 仁 氏** (消費者庁 食品表示企画課 課長補佐)

休 憩 14:20～14:45

◆パネルディスカッション 14:45～16:40

**『食品表示制度のこれからと課題』**
**－ 添加物表示、栄養成分表示、ゲノム編集食品の表示について －**
オーガナイザー **小島 正美 氏**

◆講演1.**『メディア報道に見る表示のバイアスと誤解』**
**小島 正美 氏** (食生活ジャーナリストの会 代表)

メディアは何かにつけ、消費者の選択や知る権利が最重要だと報じるが、そもそも消費者の選択とは何なのか。表示が消費者の健康維持など、どのように役に立っているかの議論はあまりない。単に『知りたいから表示してほしい』は選択でもなんでもない。

◆講演2.**『消費者に役立つ食品表示とは何かを考える』**
**阿南 久 氏** (一般社団法人 消費者市民社会をつくる会・ASCON 代表理事)

消費者庁創設の一大テーマであった「新たな食品表示制度」の確立は、当時、『食品表示法』制定後に回された個別課題の検討と合わせると、その期間は10年を要しました。果たして当初の目的は達せられたか～到達点と今後の課題を探ります。

◆講演3.**『食品表示制度の現状と今後の課題』**
**森田 満樹 氏** (一般社団法人 Food Communication Compass 代表)

2015 年 4 月に食品表示法が施行され、アレルゲン、栄養成分、製造所固有記号、原料原産地、遺伝子組換え表示などの改正が行われ、添加物表示の検討も進んでいる。一方、消費者の多くにそのことが伝わっておらず、活用されていない。

◆講演4.**『消費者から見た食品表示制度』**
**浦郷 由季 氏** (一般社団法人 全国消費者団体連絡会 事務局長)

消費者団体として食品表示制度についてどう考えるか。現在、検討に関わっている食品添加物表示をはじめ、ゲノム編集技術応用食品や原料原産地表示等について、弊会の取り組みを紹介し、今後を考えます。

◆講演5.**『理解できないのは消費者のせい？』**
**合瀬 宏毅 氏** (NHK 解説委員室 解説副委員長)

原料原産地表示に、遺伝子組み換え、添加物。さらにはゲノム編集技術。次から次へと変わる表示のあり方と新たな技術による食品の出現。頻繁に変わる表示と、官邸などトップダウンで進む政策の決定は、かえって消費者の混乱を招かないのか。政治主導という名前のもと、見えなくなった政策決定プロセスを考える。

◆講演6.**『記者から見た表示の問題点について』**
**岡 礼子 氏** (毎日新聞 くらし医療部 記者)

コンビニで商品棚を眺めると、情報過多のパッケージが目につく。特に健康志向の商品がそうだ。情報は少ないと選択できないが、多くても伝わらない。どのような表示が分かりやすいのか。取材から考えたことを紹介する。

◆閉会挨拶 16:40～16:45　表示・起源分析技術研究懇談会委員長 **安井 明美 氏**
◆交流会 17:00～18:30　交流会費:5,000 円　フクラシア八重洲 3階 会議室Ｅ

**お問合せ・参加申込み**: E-mail: office@fft.gr.jp, TEL: 029-838-8010 (フード・フォラム・つくば 事務局)
＊フード・フォラム・つくば 事務局　萩原 昌司・塚田 佳苗　URL: http://www.fft.gr.jp
＊(公社)日本分析化学会 表示・起源分析技術研究懇談会 伊藤 勇二 URL: http://www.jsac.or.jp/~kigen/